

考古アラカルト 53

特別展示 古代の祭祀 —出土品が語る平安への願い—

http://www.kyoto-arc.or.jp
(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館では、2011年4月に長岡京東南境界祭祀遺跡出土品が、京都市の有形文化財に指定されたことを記念して、特別展示「古代の祭祀—出土品が語る平安への願い—」を開催することとしました。

特別展示では京都市内に存在する長岡京・平安京と、その周辺で行なわれた祭祀遺構から出土した遺物を中心に展示しています。その多くは、長岡京東南境界祭祀遺跡から出土した長岡京期の一括遺物となりますが、その他にも平安京や周辺遺跡から出土した祭祀に使われた土器・木製品・土製品を展示しています。

パネル類は各発掘調査や祭祀遺物の出土状況のほか、具体的な祭祀の種類や様子がわかる写真やイラストで構成し、さらに水辺の祭祀を再現する模型を作製しました。これらの展示品を通覧すると、古代の都に住む人々の平安への切なる願いが実感されることでしょう。数多くの不安が渦巻く現在に、改めて平安への願いをささげたいと思います。



エントランス展示 長岡京や平安京などでは、疫病の流行や地震・火事・洪水などの災害がひんぱんに起こりました。人々は災いやけがれを防ぎ、祓い、鎮めるために都の内外で祭祀をさかんに執り行ないました。



メイン展示 長岡京東南境界祭祀遺跡出土品をはじめ、平安京や周辺の祭祀遺構の出土品を集めました。中央ケースは墨書人面土器を中心に展示しています。壁面には各遺跡の遺構写真などのパネルを並べました。古代の祭祀に思いを馳せてみてください。



水辺の祭祀 再現模型 けがれとともに息を吹き込んで紙で蓋をした土器は、近くの川や溝に流されました。このコーナーでは、祭祀が行なわれた水辺の風景を再現しています。



長岡京東南境界祭祀遺跡全景（南から）



川から出土した墨書人面土器



右京二条二坊五町の鎮祭

平安京の祭祀 穴を掘って祭祀に使用した道具を埋める鎮祭は、平安時代中期頃から盛んに行なわれるようになります。穀物などの供物を入れた土器・玉・丸い石・銭貨・金箔・鉄製鋤先などを用いました。公共の場所での公的なものと、宅地内で個人や家族・親族で行なう私的なものがあつたようです。平安時代後半以降、鎮祭は貴族などが宅地内で行なう私的な祭祀に発展していきます。



平安京出土の木製形代 祭祀を行なった後、使用した祭祀具を近くの川や溝・井戸などに流したり捨てたりしました。特に人形代はけがれや罪を移した身代わりとして使用されたと考えられます。中央の大型人形代は、齋宮邸宅跡の泉から出土しました。

ひとかたしろ 人形代 井戸から出土した立体人形代には、体に人名が書いてありました。（京都市指定有形文化財）



京都市指定文化財・長岡京東南境界祭祀遺跡出土品 伏見区淀水垂町の調査で、墨書人面土器や土製・木製祭祀具を駆使して執り行なわれた祭祀に関わる遺物が出土しました。調査地は長岡京の東南隅に近い道路交差点付近で、見つかった墨書人面土器584点は圧倒的な量を誇ります。描かれた人面がよく残り、長岡京期の境界祭祀の貴重な資料として、共伴遺物を含む830点が文化財指定されました。

山上の祭祀遺物 右京区梅ヶ畑では、丘陵頂上で行なわれた祭祀の跡が見つっています。多数の須恵器瓶子のほか、和同開珎などの銭貨・二彩陶器・仏像を線刻した石片などの多種多様な遺物が出土しました。